



水門 義昭 議員

高山市に対する 支援組織づくり

高山出身者へのアプ ローチは

【問】ふるさと納税の現
状は。

【答】265件で26
28万円余りの寄附を
頂いている。

【問】寄附によりどの様
な事業ができたのか。

【答】寄附金と同額を
飛騨高山ふるさと基金
から取り崩し、寄附者
と市、市民が一体と



ふるさと納税のご寄附で、祭礼の
衣装を復興しました

高山市民以外からの意 見について

【問】先般開催の日本再
発見塾の成果は。

【答】貴重なご意見を
いただいた。まちづく
りにはゴールがないと
改めて感じた。ご意見
やご提案に真摯に耳を
傾けまちづくりを進め
ていく。

外部ブレインの組織化 について

【問】観光大使、ファン
クラブはあるのか。

【答】観光大使の委嘱
は行っていない。ファ
ンクラブは平成4年頃
に休止している。

【問】仮称「飛騨高山ま
ちづくり支援大使・飛
騨高山大使」の設置の
考えは。

【答】お知恵などをよ
り体系的に収集する上
で有意義なことと考え
ているので、その手法
などについて今後研究
する。



藤江 久子 議員

特養老の増床は、 入所基準の見直しを してから！

男女共同参画社会に向 けて

【問】男女が性別に関係
なく互いに助け合い暮
らしていく社会の構築
が急がれている・・・

「おい、お茶！」夫の声
に、足を引きずってお
茶を持ってこようとす
る妻、私が見てきた介
護の現場です。妻が介
護する立場で夫がされ
る立場なんて、誰にも
決められない。



それは、どちら
が先に倒れるか
分からないからだ。そ
こで、若い時からのパ
ートナーとしての夫婦関
係が重要となるが市は
どういった施策を展開
していくのか。

【答】幼い時からの取
り組みが重要であり、
意識啓発をしていく。

第5期介護保険事業計 画の執行について

【問】介護人が急病に
なった時や遠方の親戚
に不幸があった時など
に利用できる「緊急
シヨートステイ」が早
急に必要となっていて
がその進捗状況は。

【答】情報収集等をし
ている段階。今後、事
業者と協議をしていく。

【問】特養老が82床増床
されるが入所基準が不
透明であり必要性の高
い人（要介護度は軽い
が家庭内に複数障がい
者を抱えていたり、介
護者が高齢や病気を抱
えている場合など）が
入れない場合がある。
困った時に入れない施
設では、どれだけ造っ
ても市民の「困った感」
は解消されない。今後

入所基準の見直しはで
きないのか。

【答】国の指導の中に
「介護度4・5以上の
人を70%以上にするべ
き」との見解等がある
ためであるが、今後は
事業者と協議をしてい
きたい。

地産地消をどう進めて いくのか

【問】地産地消の大切さ
は周知しているが、そ
れをどう進めていくの
か道筋ができていない。
飲食業者や市民は直
販所やスーパーなどで
買っている状況で安定
した供給体制が整備さ
れていない。現況につ
いて方策は。

【答】情報が不足して
いることは認識してお
り今後は、方策につい
て検討していく。



直売所に並ぶ伝統野菜